

東京家政大 の神野節子, 花王石鹸 小川富美恵

1. 目的 乾燥してきれいに見えるピンク色変おむつ5検体のすべてが100cm<sup>2</sup>に億以上の細菌および酵母を付着させていて、おむつは微生物の巣窟であった。そこでおむつのピンク色変を防止すると同時におむつを如何に衛生的に管理したらよいか、家庭で実施可能な対策のための基礎実験を行ったのでここに報告する。

2. 方法 市販の防菌漂白おむつ洗剤5種類の除菌・漂白効果およびアイロンの乾熱と湿熱による殺菌効果を下記の通り比較検討した。

- 1). おむつ洗剤の調整: 5種類の洗剤M.G, MY-1, MY-2, AEそしてBHは表示通りに溶液を作成した。
  - 2). 試布: 供試おむつは10×10cmに無菌的に切断して、先きに調整した各々の洗剤液中に2時間放置後5分間水洗した。さらに蒸留水で2回洗浄して滅菌濾紙の間にはさんで乾燥させた。洗剤液中に処理しないおむつを未処理対照布とした。
  - 3). アイロン加熱試布: 10×10cmに切断した供試おむつは一つは乾いたまま、他の一つには2mlの水を噴霧していづれも180℃で30秒加熱処理した。
  - 4). 防菌殺菌効果の比較: 供試洗剤およびアイロンの乾熱と湿熱の処理効果は、未処理試布と洗剤およびアイロン処理布の真菌および細菌の生菌数・大腸菌群・ブドウ球菌・陽球菌群の出現の有無・数を比較した。
3. 結果 供試各洗剤およびアイロンの乾熱と湿熱の処理有効順位は次の通りであった。  
蒸気アイロン・BH > M.G > AE > 乾熱アイロン > MY-2 > MY-1